

伝達能力の育成

－「断わり」という発話行為を例に語用論的視点より－

テンブル大学 (Temple University Japan)

川手・メジェイエフスカ 恩

0. はじめに

日本語教育における課題として、いかに伝達能力(communicative competence)を育成するかと言うことを、考える必要があろうかと思われる。そして、伝達能力の育成においては、言語運用ができるような文法知識 (deployable grammatical knowledge) の育成と共に、その言語能力をコミュニケーション(communication)の場において適切に使用できるようにするための知識 (knowledge of rules of speaking)－例えば、個々の発話行為に関する知識－の育成が重要であると考えられる。

本稿では、幾つかの発話行為を、対照研究(contrastive pragmatics)的視点に基づき分析し、異文化間に生じる発話行為上の誤解 (cross-cultural misunderstandings) の要因を探る。また、「断り」という発話行為を例に、日本語学習の指導における重要な課題のひとつである、言語機能に関する問題点 (functional problems)の対処の仕方を探る。

1. 発話行為 (speech act)

本稿においては、コミュニケーションの機能的単位(functional unit)としての発話、つまり「感謝」(Gratitude)、「詫び」(Apology)、「お世辞」(褒め言葉 Compliment)、「断り」(Refusal)をとりあげて考えてみる。そこでまず、発話の持つ二種類の意味について触れておく。

発話は、*命題的意味(propositional meaning)*と*発話内的意味 (illocutionary meaning)*より成り立つ。前者は*発語的意味*とも呼ばれ発話の持つそのままの文字どおりの意味を表し、後者は*発語内の方*とも呼ばれるもので発話が聞き手に及ぼす影響のことをいう (Austin, 1962; Searle, 1965)。例えば、「もう、おなか、一杯です」という発話を考えてみると、*命題的意味*は、もうすでにあなかが一杯であるという文字どおりのもので、*発話内的意味*のほうは、もう、おなか一杯なので、これ以上は食べられないという「断り」の意思表示となるわけである。

次に、発話というのはその伝達慣習や価値の相違などにより、各々の言語社会によって多少なりと異なるということを、ここで強調しておきたい。そして、このことが異文化間に生じる発話行為上の誤解(cross-cultural misunderstandings)を招く原因の一つであると考えられる。そこで、以下異文化間に生じる発話行為上の誤解について少し触れておきたい。

2. 異文化間に生じる発話行為上の誤解(cross-cultural misunderstandings)

異文化間に生じる発話行為上の誤解はプラグマティック・トランスファー（誤用論レベルでの転移:pragmatic transfer)と誤用論レベルでの *中間言語*の形成によって生じると考えられる。そして更に、プラグマティック・トランスファーには誤用論レベルにおける言語使用の誤用によって生じる *Pragmalinguistic Failure*とそれにおける社会言語学的使用の誤りによって生じる *Sociopragmatic Failure*の二つの要因がある(Thomas, 1983)。前者は、第一言語の発話を学習言語に移転するがその発話における伝達慣習(communicative conventions)が異なるため生じ、発話内的意味が通じないものをいう。例えば、日本語における「考えておきます」という発話を英語で考えると「I'll think about it」となるわけであるが日本語でいう「考えておきます」の方は、「断り」の意思表示にもかなり用いられるのに対し英語の「I'll think about it」というのは、「断り」の意思表示に使われるというよりもむしろ、本当に考えておくという意味で用いられ、後でその事についてのなんらかの返事を期待できるものである。ここで問題となるのは、日本人英語話者が、日本語を話している時と同じように考え「I'll think about it」と言うと、北米英語を母語とする聞き手は本当に考えてくれているものと思い、いつまでも返事を待っていたりそれを催促したりすることになる。そして返事がないと考えておいてくれると言ったのになぜ約束を守らないのだろうかというような疑問さえ出てくる。この様にして、異文化間に発話行為上の誤解が生じるのである。さて、後者の方とは言えば、価値の相違、対人関係に関する考え方の相違、タブー概念の相違などのよるもので、若い米国人日本語話者が、英語を話している時と同じように考え、会社の日本人上司からの「申し訳ないんだがこれ、どうしても今日中に必要なだけどやってもらえないだろうか」という要請に対して「今日は水泳に行く日なので帰らせていただきます」などと言って断った時に生じる発話行為上の誤解である。つまりここでは、日本人上司は仕事がこれほど忙しい時に自己を優先して水泳など行かなくても、一回くらい休んでもいいじゃないかと思い、この若い米国人部下は、これによって上司からの信頼を失うかもしれないが、その原因についての心あたりがなく、最近自分に対する上司の態度が以前と違うがなぜだろうかなどと、悩んだりすることになる。

次に、異文化間に生じる発話行為上の誤解のもう一つの要因である、誤用論レベルでの *中間言語*の形成についてであるが、これは、第二言語もしくは外国語学習者が目標言語習得過程において形成するもので、学習者の母語における発話にも目標言語における発話にもみられない独特のものである (Selinker, 1972)。例えば、こんな話がある。日本に住む米国人の大学教授が彼の学生にレストランの予約を頼み「Thank you very much. You did a good job...」と言ったのに対してその学生は、「We'll see」とでも言うておけばよかったのに、「I could do it even if I were not Japanese」と訳の判らないことを言ってしまった。

彼女にしてみれば、「You're welcome」というのは余りにも形式的で「It's my pleasure」というのは余りにも大袈裟すぎるし「It's OK」にいたっては余りにもざっくりばらん過ぎたのであろう、とんでもない、(こんな誰にでもできるような簡単なことに) そんなに感謝していただくなくてもという謙遜のつもりで、この様な状況下では母語にも、目標言語にも見られない発話を形成してしまったのである。他方、この教授の方は耳を疑ったであろう。つまり、これは自分でやれということなのだろうかなどと考え当惑したに違いない。

さて、それでは次に個々の発話行為を例にとり、英語と日本語ではどのような違いがあるのかを探ってみる。

3. 発話行為(speech behavior: sociolinguistic behavior)

3-1 「感謝」(Gratitude)

まず、英語の「Thank you」という「感謝」を表す言葉に対して日本語には「すみません……」、「ありがとう……」、「申し訳……」、「恐れ入り……」という四種類もの異なる言い方がある (Eisenstein + Bodman, 1986 ; 小川, 1995)。次に、日本語では知人に何かを頼んだ時とか知人から贈物を貰った時は、「ありがとう」よりも、「すみません」の方が頻繁に使われるのに対し、英語ではこの様な状況下では、日本人話者のように、相手に対して借りができたという気持ちはなく、ただ単に、感謝を表すので「すみません」という言い方はなく「Thank you」が用いられる (Coulmas, 1981)。また、英語の「Thank you」という「感謝」の表現には、使用制約が無いのに対し日本語の「すみません」には、使用制約があり、教師の指導に対する感謝の気持ちを表す時、人にノートを借りて返す時などには使われない (小川, 1995)。小川 (1995) は更に、「すみません」は、若い世代の上司や年配者に対する軽い感謝の表現で、上の世代では、年下の者に対してや友人間で用いられるという。

この様な違いより、英語を母語とする日本語学習者は「Thank you」という「感謝」の気持ち一つを表すにも、どの表現を使えばいいのか混乱してしまい、不適切な言い方をしたりし誤解を招くことになる。

3-2 「詫び」(Apology)

「詫び」には、詫び、責任表明、状況説明、償いの申し出、繰り返さない旨の約束という五つの詫びの方略 (Apology Speech Act Set) があり、これは英語にも日本語にも共通のものである (熊取谷, 1993; Blum-Kulka, House-Edmondson, and Kasper, 1989)。詫びは、話し手の明示的な定式表現 (formulaic expressions)、責任表明は、詫びが必要な状況下において文字通り責任を表明すること、そして、状況説明というのは、話し手にとって不可避な外的要因により引き起こされた、詫びが必要な状況下における客観的な理由を述べることで (バスに乗り遅れた場合などは、「バスに遅れました」というと主語は自分ということになるので責任表明として考えられ、「バスが遅れました」というとこれは自分の力ではどうにもならない外的要因と考えられ状況説明ということになる)、償いの申し出は、詫

表1 詫びの方略 (Apology Speech Act Set)

方略	表現
詫び	「すみません」、「申し訳ありません」、「失礼しました」、「ごめんなさい」、「悪い」、「すまん」、「ごめん」……
責任表明	「忘れていました」、「そんな事は聞いておりません」、「私の過ちです／じゃありません」、「私のせいじゃありません」、「あなたのせいです」、「そんなつもりじゃありませんでした」、「時間がありませんでした」……
状況説明	「道が混んでいましたから……」、「出掛けようと、思っていたらちょうど電話がかかってきて……」、「会議がなかなか終わらなくて……」……
償いの申し出	「保険で弁償させていただきます」、「きちんと直させていただきますので……」、「何でも好きなものを買ってあげるから……」、「明日絶対に連れて行ってあげるから……」……
繰り返さない 旨の約束	「このような事は二度とないように致しますので……」、「もう、絶対忘れないから……」……

びが必要な状況下において償いの申し出も必要な時に使われる方略である。最後繰り返さない旨の約束についてであるが、これは話し手の詫びなければいけないという気持ちが強い時に使われるもので、もう二度とこのようなことはないという約束のことをいう(表1参照)。

熊取谷(1993, p. 30)によれば、英語には詫び受入れの要請 (*Please accept my apology*)や詫びの申し出表現 (*I would like to offer my apology*)があるのに対し、日本語にはそのような詫びの方略はなく、反対に日本語には「失礼しました」という表現があるのに対し英語にはその様な方略は存在しない。また年配や同年配との約束を忘れた時や、小さな事故を起こした時など(駐車場で隣の車に軽くあたる)日本語母語話者は責任表明より詫びをする方が圧倒的に多いのに対し北米英語母語話者は詫びより責任表明をする傾向にある(Kawate-Mierzejewska, 1994b)。

この様な違いにより、例えば、日本に住む米国人が駐車場で隣の車に軽くあたってしまったような時、「申し訳ありません」などと言わずに、「おたくの止め方が悪からあたってしまったんじゃないですか!(あなたのせいですよ)」などと言ったら、聞き手の方は憤慨するに違いない。このような時、この米国人が日本人は

どの様にこのような状況に対処するのかということを知っていれば、こともスムーズに運ぶであろう。

3-3 「お世辞」(褒め言葉・Compliment)

表2 意味公式

	北米英語	日本語
形容詞 (形容動詞)	good, nice, great, cute. pretty, beautiful (79.8% of all adjective compliments)	上手、上等、立派、偉大、いい、 素敵、素晴らしい、可愛い、凄い、 美しい、綺麗、若い (形容詞/形容動詞を使用した 褒め言葉の72.9%)
	北米英語話者だけに 使われた形容詞 8	日本語話者だけに使われた 形容詞/形容動詞 21
動詞	like, love (85% of non- adjectival compliments)	する、おやりになる、お知りになる 知っていらっしゃる、使う、お使い になる、処理する、取り扱う、上達 する.....

(Kawate-Mierzejewska, 1994a)

表2が示すように、「お世辞」の意味定式(semantic formula)表現を考えると北米英語では決まり切った言葉が使われるのに対し、日本語ではその場に応じていろいろな言葉が使用される傾向にある。例えば、北米英語では、たった六つの形容詞が約80%の形容詞を含む「お世辞」に使用されるのに、日本語では、十二もの形容詞/形容動詞が使われる。また、北米英語話者だけに使われた形容詞は、八つだけであるのに、日本語話者だけに使われた形容詞/形容動詞は二十一もある。そして、動詞をみると北米英語ではlike, loveの二つが主に使用されるのに、日本語では様々な動詞が使用されるようだ(表2参照)。

次に統語構造(syntactic structure)についてであるが、北米英語によるものは日本語によるものより統語構造のパターン化がみられる。Kawate-Mierzejewska, (1994a)によれば、北米英語による「お世辞」のほぼ九割がたった四つの統語パターン [Noun Phrase (NP) be/look {intensifier} Adjective(Adj.): *Your*

*tie is nice, You look really nice tonight; I {intensifier} like/love: I really like your car; Pro-noun be {intensifier} Adj. (a) NP: That's really a nice car; Adj. NP!; Nice sweater!]*に当てはまるが、日本語でによる「お世辞」は、三十種類もの統語構造のパターン化がみられるようだ。

それでは、褒められた時の返答についてはどうかというと、概して北米英語話者は「お世辞」を受け入れる傾向にあり、日本語話者は、それを否定する傾向にある（少なくとも表面的には）。また、日本語話者のもつ北米英語話者にはみられない返答として、スマイリング(smiling)、無視、諺（馬子にも衣装、三人よれば文珠の知恵）などがあげられる(Kawate-Mierzejewska, 1994a)。

以上のような違いより、米国人が日本語でお世辞を言う時、どのような状況で、どの形容詞を使って、どういう表現をすれば適切なのかと頭を悩ますだろう。返答についていえば、ある田舎の老人が米国人の日本語を褒めたら彼は「はい、そうです。僕の妻もとても上手です」と応えたので、その老人は思いがけない返答にさかさか混乱したという。

3-4 「断り」(Refusal)

「断り」には、依頼、招待、申し出、提案に対する、四種類のものがあり、意味公式を考えてみると、直接的な「断り」と間接的な「断り」に分類でき、更に後者の方は九種類に細分される(Appendix 1 参照)。

北米英語話者による「断り」の方法は、上下関係には余り支配されなくむしろ同等の立場にある者に対し異なった対応をするのに対し、日本語話者によるものは、相手との関係に支配される。例えば、招待に対する「断り」では、上や同等の立場にある者に対しては、断る前に必ず謝罪をしたり、依頼に対する「断り」では謝罪をするばかりでなく代案まで出すのに、下の立場の者に対する「断り」には謝罪や代案はみられない。また、概して、北米英語話者には直接的な「断り」がよくみられ、日本語話者には間接的な「断り」、特に緩衝語句、言い切りの形をとらない文末表現がよくみられる(Beebe, Takahashi, and Uliss-weltz, 1990; 生駒・志村, 1993)。

このような違いにより生じた誤解にはこんな話がある。ある日本人女性が米国人より映画に誘われたのだが、何となく行く気になれないので精一杯、話題をそらしながら間接的に断り続けたが聞き手には全く理解して貰えなかったという。そればかりでなく、聞き手は訳が分らなかったようだ。また、米国人部下が日本人上司の依頼を余りにもはっきりと断ったので上司の機嫌を損ねたという話もある。このような誤解は、聞き手の言語社会に存在する社会言語学的規則をわきまえていけば避けられるものに違いない。

4. レッスン・デザイン：－「断り」という発話行為－

ここでは、「断り」という発話行為のレッスン・デザインを紹介しておく（これ

が実際に使えるものかどうかということは、各々で吟味されたい)。

レッスン・デザイン：－「断り」という発話行為－

- 目的： 日本語と学習者の母語の言語社会間にある社会言語学的相違に関する学習者の意識をたかめる。
- 機能： 招待に対する「断り」
- ポイント： 1. 相手との関係（上下、横の繋がり）
2. 間接的な「断り」
- レベル： 上級
- 設定： ペア一か小人数のグループ、もしくは教師がタスクを導く。
- 教授手順： 1. 診断テスト (Appendix 2 参照)
2. 招待に対する「断り」を使った対話を学習者に紹介 (Appendix 3 参照)
a. 学習者は対話を聞き、「断り」を確認する。
b. 次に、学習者は相手との関係に関する情報のない、aと同じような対話を与えられ (Appendix 4 参照)、それぞれの対話における相手との関係（上下横）とそれぞれの「断り」の意味公式を確認する (Appendix 1 + 4 参照)。
c. そして、日本語の招待に対する「断り」についての質問に答える（タスクを通して学んだことや気が付いたことをまとめる） (Appendix 5 参照)。
3. 最初の診断テストと同じテストをやり、タスクを通して学んだことを試してみる。（教師との対話形式）
4. Role-play (ペア一)
5. Feedback と Discussion

6. 終りに

先行研究 (Schmidt and Richards, 1980; Cohen and Olshtain, 1981; Blum and Kulka, 1982; Olshtain and Cohen, 1983; Eisenstein and Bodman, 1986) から伺えるように異文化間に生じる発話行為上の誤解の要因はプラグマティック・トランスファー (pragmatic transfer: 語用論レベルでの転移) や語用論レベルでの *中間言語* の形成であると考えられる。

日本語教育において、日本語や学習者の言語社会における様々な発話行為を分析したり、プラグマティック・トランスファー、そして語用論レベルでの *中間言語* 形成の研究をより一層押し進めることが必要であると考えられる。

参考文献

- (1) Austin, J. E. (1962) *How to Do Things with Words*. Oxford: Clarendon Press.
- (2) Beebe, Takahashi, and Uliss-Weltz (1990) Pragmatic transfer in ESL refusals. In R. C. Scarcella, E. Anderson and S. C. Krashen (Eds.), *On the Development of Communicative Competence in a Second Language* New York: Newbury House.
- (3) Blum-Kulka, S. (1982) Learning to say what you mean in a second language: A study of the speech act performance of learners of Hebrew as a second language. *Applied Linguistics* 3(1) : 29-59.
- (4) Blum-Kulka, S., J. House and G. Kasper (Eds.) (1989) *Cross-Cultural Pragmatics: Requests and Apologies*. Norwood, N.J. : Ablex.
- (5) Cohen, A. D., and E. Olshtain (1981) Developing a measure of socio-cultural competence: The case of apology. *Language Learning* 31(1): 113-34.
- (6) Coulmas, F. (Ed.) (1981) *Conversational Routine*. The Hague: Mouton.
- (7) Eisenstein, M., and J. W. Bodman (1986) I very appreciate: Expressions of gratitude by native and nonnative speakers of American English. *Applied Linguistics* 7(2) : 167-85.
- (8) 生駒智子、志村昭彦 (1993) 「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー: 断りという発話行為について」『日本語教育』79号、p. p. 41-52.
- (9) Kawate-Mierzejewska, M. (1994a) *Complimenting Behavior from Cross-Cultural Perspective*. Paper presented at 28th Annual IATEFL (International Association of Teachers of English as Foreign Language) Conference, Brighton, England, April.
- (10) Kawate-Mierzejewska, M. (1994b) *A Study of Pragmatic Transfer: the Case of Apology*. Paper presented at the 3rd Annual IATEFL Conference Kielce, Poland, November.
- (11) 熊取谷哲夫 (1993) 「発話行為対照研究のための統合的アプローチ-日英語の詫びを例に-」『日本語教育』79号、p. p. 26-40.
- (12) 小川治子 (1995) 「感謝とわびの定式表現-母語話者の使用実態の調査の分析-」『日本語教育』85号、p. p. 38-52.
- (13) Olshtain, E., and Cohen, A. D. (1983) Apology: A speech set. In Wolfson, N., and E. Judd (Eds.), *Sociolinguistics and Language Acquisition*. Rowley, MA: Newbury House.
- (14) Schmidt, R. W., and J. C. Richards (1980) Speech act and second language learning. *Applied Linguistics* 1(2) : 129-57.

- (15) Searle, J. R. (1965) What is a speech act? In M. Black (Ed.), *Philosophy in America*. Ithaca, New York: Cornell University Press.
- (16) Selinker, L. (1972) Interlanguage. *International Review of Applied Linguistics* 1: 209-30.
- (17) Thomas, J. (1983) Cross-cultural pragmatic failure. *Applied Linguistics* 4(2): 91-109.
- (18) 横山杉子 (1993) 「日本語における、日本人の日本人に対する断りと日本人のアメリカ人に対する断りの比較」『日本語教育』81号、p. p. 141-51.

Appendix 1

(意味公式の分類)

- I. 直接的な断り(direct) e.g. お断りします/いいえ、..... ません
- II. 間接的な断り(indirect)
- (1) 謝罪 (Apology) e.g. 申し訳ないんですが、、、
- (2) 遺憾 (regret) e.g. 残念ですが、、、
- (3) 希望 (hope) e.g. 行ければいいのですが、、、
- (4) 言い訳 (Excuse) /理由 e.g. 風邪を引いたので、、、
- (5) 感謝 (Appreciation) e.g. 大変有り難いんですが、、、
- (6) 将来の約束 (promise) e.g. 今度、絶対行くから、、、
- (7) 回避 (avoidance)
- a. 話題の切り替え (attempt to change a topic)
- b. 繰り返し (repetition) e.g. 明日ですか
- (8) 間を持たせる表現 e.g. うーん/えーっと/いやぁ
- (9) 緩衝表現 (alleviator) e.g. ちょっと

(Ikoma and Shimura, 1993; Yokoyama, 1993)

- 例題1 田中: 「明日、日本語の弁論大会があるんですが、どうですか。」
- 鈴木: 「明日ですか。」
repetition
- 田中: 「そう、明日、十時からなんですけど、、、」
- 鈴木: 「申し訳ございません。是非、伺いたいんですが、、、明日は、
apology hope
ちょっと他に、行かなければならない所がありますので、、、
alleviator excuse(reason)
- 田中: 「そうですか。じゃあ、次の機会にでも、、、」
- 鈴木: 「はい、お願いします。 本当にすみません。」
promise? apology

Appendix 2

Assessment Questionnaire: (telephone conversations)

下のそれぞれの電話での場面において、あなたならどう断りますか。最も近いものを選びなさい。

Upwards :

友人のおかあさん : 「一月二日に、家で新年会をと考えているんだけどあなたもいらっしゃらない？」

- あなた : (1) 「二日は行けませんから、お断りします。」
(2) 「二日ですか。三日なら、伺えるのですが、、、」
(3) 「残念ですが、行けそうにありません。」
(4) 「今回は、行けないわ／行けないよ。」
(5) 「是非、伺いたいのですが、、、二日はちょっと、、、申し訳ありません。」
(6) 「ご招待は大変うれしいんですが、二日は行けません。」

Equal :

友達 : 「一月二日に、家でパーティーするんだけど来ない？」

- あなた : (1) 「お断りします。」
(2) 「二日はちょっと無理ね／無理だなあ。」
(3) 「ごめん。二日は、他のパーティーがあるのよね／あるんだよね。他の日じゃだめなの？」
(4) 「うーん、、、ちょっと行けそうにないわ／ないね。」
(5) 「行ければいいんだけど、、、ごめん。次回は絶対行くから、、、」
(6) 「せっかくですが、二日は行けません。」

Downwards:

後輩 : 「一月二日に、家でパーティーを開くんですが先輩もいらっしゃいませんか。」

- あなた : (1) 「二日はちょっと無理ね／無理だなあ。他の日じゃだめなの？／他の日じゃだめなのかい？」
(2) 「二日は行けないと思います。」
(3) 「二日？ちょっと無理ね／無理だなあ。」
(4) 「申し訳ないけど、二日は他の約束があるから」
(5) 「うーん、、、ちょっと無理ですね。」
(6) 「せっかくだけど、、、また、よんでくれる？」

Appendix 3

Refusals to invitation(telephone conversations):

「断り」を確認しよう。

Upwards:

田中先生（60才：ベテラン）と鈴木先生（24才：新米）

田中： 「明日、日本語の弁論大会があるんですが、どうですか。」

鈴木： 「明日ですか。」

田中： 「そう、明日、十時からなんですけど、、、。」

鈴木： 「申し訳ございません。是非、伺いたいんですが、、、明日はちょっと他に行かなければならない所がありますので、、、」

田中： 「そうですか。じゃあ、次の機会にでも、、、」

鈴木： 「はい、お願いします。本当にすみません。」

Equal:

圭子さんと美子さんは友達です。

圭子： 「今、用事が済んだんだけど、お昼でも一緒に食べない？」

美子： 「今から？いやあ、、、申し訳ないけど、今日はちょっと、、、また近いうちに電話するわ。」

圭子： 「そう、残念ね。」

美子： 「ごめん。」

圭子： 「うん。わかった。じゃあ、また。」

Downwards:

林先生（年配・お琴のお師匠）と石川さん（お琴のお弟子さん）

石川： 「先生、来週、私たちのコンサートをききにいらっしゃいせんか。」

林： 「来週のいつ？」

石川： 「月曜日の夕方、五時からです。」

林： 「あらそう。月曜日はちょうどお友達と約束があるので、行けそうにないわ。」

石川： 「そうですか。じゃあ、来月もまたありますので、そのときは是非、、、」

林： 「そうね。早めに知らせて下さる？」

Appendix 4

11. パートナーと役割を決めてdialogueを何回か読みながら 断ク の文に下線を引きなさい。そして、その下に 断ク の種類を表より選んで、例題1のように書きなさい。

Telephone Conversations

1.

岡田： 「今度、家で小山さんの送別会をするんですが、山田さんもうらっしゃいませんか。」
山田： 「いつですか。」
岡田： 「来週の金曜日の六時からですけど、、、」
山田： 「来週の金曜日ですか。いやあ、大変残念なのですが、、、ちょっと、、、金曜日は他の約束が、、、」
岡田： 「そうですか。じゃあ、仕方無いですね。」
山田： 「どうもすみません。せっかくお誘いいただいたのに、、、」
岡田： 「いやいや。じゃあ、そんな訳でまた。」
山田： 「はい、失礼します。」

2.

加藤： 「来週、家でパーティーを開くんですが、先生もうらっしゃいませんか。」
山口： 「来週のいつ？」
加藤： 「月曜日の夕方五時からです。」
山口： 「月曜？ちょっと無理だね。月曜は友達が来ることになっているから。」
加藤： 「そうですか。じゃあ、またお電話します。」
山口： 「そうだね。」

3.

小松： 「今、会社の近くにいるんだけど、お茶でも飲みに行かない？」
池田： 「今から？今日はちょっと、、、」
小松： 「じゃあ、また今度」
池田： 「申し訳ない。近いうちに、また電話してくれる？」
小松： 「そうね。」
池田： 「じゃあ、そういうことで、、、」

Appendix 5

IV. 次の質問に答えなさい。

(1) ()の中になが入りますか。

	Dialogue 1	Dialogue 2	Dialogue 3
断っている人 ()	()	()	()
Status ()	()	()	()

(2) 日本語の断り表現では、どの様な表現がよく使われますか。

a. 直接的？間接的？

b. 断る相手によって表現が変わる？どの様に？

c. よく使われる表現は？断る相手によって変わる？

V. 教師が Assessment Questionnaireの場面を使って学習者と会話をする。

VI. あなたのパートナーと実際の場面に出会ったようなつもりで、それぞれの役割を決めて会話をしなさい。

Role-play :

- (1) 上司／先輩からパーティーに招待されましたが、その日はちょうどあなたのお父さんの誕生パーティーがあります。
- (2) 友達のご両親からピアノのコンサートに行かないかと誘われましたが、どうも行く気になれません。
- (3) 友達から誕生パーティーに来ないかと誘われましたが、その日は別の約束があります。
- (4) 友達から映画に誘われましたが、どうもその友達が苦手です。
- (5) 同僚／友達からジャズコンサートに行かないかと誘われましたが、ジャズは嫌いです。
- (6) 後輩から学園祭に招待されましたが、その日は友達と映画をみる約束があります。
- (7) 学生から一緒に山へ登ろうと、さそわれましたが、どうも行く気になれません。